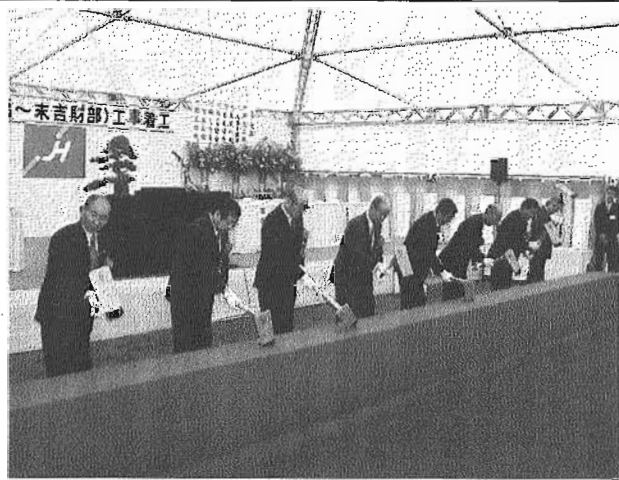


東九州自動車道(大隅)工事着工式

鹿大丸建設で着工

東九州自動車道(大隅)末吉(財部)工事着工式が26日、曾於郡末吉町大字諏訪方で日本道路公団九州支社(伊藤容三社長)主催で行われた。式には国土交通省九州地方整備局、地元選出国会議員、県知事、関連市・町行政、建設関係者、沿線住民ら300人が出席して工事の着工を祝うと共に早期完成を願った。



工事の安全を祈り、鉄入れ式を行う関係者
=末吉町の現地で

式では、伊藤支社長が「平成9年に施行命令を受けて進めてきた。用地買収など順調に進み、この末吉町で当地のシラスの地質の特性を把握し、施工計画に反映させるべく試験工事を実施することになった。とくに東九州自動車道は全体で3割しか開通していない。今後全線開通に向けて協力を頂きたい」と挨拶。県知事、国会議員、渡辺

茂樹九州整備局長、県議会議長らが全線開通に向けてまい進したいと来賓挨拶した後、関係者17人による鉄入れ式を行った。今回の着工は、菱田川橋(仮称)の橋脚3基、橋台1基と工事用道路で事業費は5億1580万円。施工は鹿大丸建設(株)。



建設工事の留意事項に聴き入る参加者
=鹿児島市の県市町村自治会館で

仮称・県試錐工事関係業者連絡協議会(宇都忠良代表世話人)主催、県地質調査業協会・県地質調査業協同組合後援の14年度経営者・営業所長研修会は26日、鹿児島市の県市町村自治会館で開き、県土木部から講師を招いて公共工事適正化法関連の法令、制度改正、運用基準等を学んだ。

研修会には、県内に本・支店等を有し、県工事等における設計受注者となる資格のある地質調査業者、建設関係者、関係者ら約60人が参加。冒頭、宇都代表が「建設業法等関係法令を正しく理解し、専門工事業者としてプライドを持って施工にあたり、今日の研修を生かして今後の事業活動が適正に行われることを祈念する」と挨拶した。

研修では初めに、地質調査業協会が砂防工事等における設計受注者となる資格のある地質調査業者、建設関係者、関係者ら約60人が参加。冒頭、宇都代表が「建設業法等関係法令を正しく理解し、専門工事業者としてプライドを持って施工にあたり、今日の研修を生かして今後の事業活動が適正に行われることを祈念する」と挨拶した。

経営者・営業所長研修会
業法・改正要綱等を学ぶ

工事のあり方について、質疑応答を交えて講義。木場信人監理用地課建設業係主幹は、資格審査要綱に関連し、工事実績の必要性や県税証明書の添付、経費の有効期限への留意などを指摘した。

また、上赤孝男技術管理課技術調整監は、主任(監理)技術者と現場代理人の違いと適正配置施工体制の整備を強調。このほか、同課職員がCALS/EC、建設リサイクル法の適正な対応、生コンクリート等の品質管理について説明した。



15年度事業計画などを決めた臨時総会
=鹿児島市の鹿児島東急インで

労働条件の向上等を柱に
県労働基準協会臨時総会

市の鹿児島東急インで14年度臨時総会を開き、労働条件の向上や労働災害防止対策などを柱とする15年度事業計画などを全会一致で承認した。

総会の冒頭、菅会長が「個人消費の低調・失業率の高止まりなどデフレ傾向は継続し、中東情勢や米国の景気動向など多くの不安定要因を擁しながら推移している。このような中で、新年度は労働条件の向上や労働災害防止対策を重点に、各種事業を展開し、更に周知徹底を図りたい」とあいさつした。

市は鹿児島東急インで14年度臨時総会を開き、労働条件の向上や労働災害防止対策などを柱とする15年度事業計画などを全会一致で承認した。

総会の冒頭、菅会長が「個人消費の低調・失業率の高止まりなどデフレ傾向は継続し、中東情勢や米国の景気動向など多くの不安定要因を擁しながら推移している。このような中で、新年度は労働条件の向上や労働災害防止対策を重点に、各種事業を展開し、更に周知徹底を図りたい」とあいさつした。

真心で介護事業に尽力
松恵会

社会福祉法人松恵会(櫻井朝生理理事長)は26日、鹿児島市西別府町に、このほど完成した特別養護老人ホーム「松恵園」増築及びグループホーム「ほのぼの」新築の落成式を開き、関係者ら約100人が出席して同施設の完成を祝った。



完成を祝いテープカットする関係者
=鹿児島市の現地で

式典では、櫻井朝生理理事長、森山裕義、富鶴義紀鹿児島市地域福祉課長、下村祐毅市議らによるテープカットが行われた後、会場を同施設内に移し、冒頭、櫻井理事長が「無事に落成式を迎えることができ、ひとえに皆様のご支援、ご協力のおかげだと感謝いたします」とあいさつした。

海岸通線東海大橋開通式
経済発展に大きく貢献



テープカットをする田畑市長(中央)ら
=串木野市の現地で

串木野市が整備を進めていた街路事業3・5・9号海岸通線が完成し26日、現地で東海(トンハ)大橋開通式が行われ、県や市、施工業者、市民ら関係者約200人が出席して完成を祝った。

同日は、田畑誠一市長らがテープカット、東英雄伊集院土木事務所長や串木野保育園児らがくす球を割り、パトカーの先導で串木野西中学校の吹奏楽部を先頭に、親子3代や関係者が往復して渡り初めを行った。引き続き、特設テント内に場所を移し、開かれた式典では、田畑市長が「各位の理解・協力によって大橋が開通した事は喜ばしい。西回り高速道の串木野インターに呼応した関連道路の整備を進めているが、外環状都市計画道路として漁港外港と新港および西薩工業団地を結ぶ重要な路線が開通した事で、企業誘致にも拍車がかかる。経済発展に大きく貢献できるものと期待する」と挨拶。

このあと、田中勇造同市建設部長の事業概要説明や来賓祝辞の後、乾杯して開通を祝った。なお、橋の名前は、同市が進める東海交易圏構想に位置付けられている串木野新港の開港指定又は、国際交流の一環である日中友好交流のシンボル橋にふさわしい名称として公募により決定した。

工事概要は、全体延長690m、取付道路494m、橋梁区間196m、橋梁形式B活荷重PC3径間連続桁橋。総事業費は19億7197万1000円。万里の長城をイメージした橋梁は、入港する船舶に配慮して橋面内側に照明を組み込んで歩道を照らすと共に、遠くからは橋の輪郭が浮かび上がる工夫がされている。

橋梁および取付道路の施工は、コアツ工業(株)、(株)森山組、(株)上野組、(株)榎元組、小川建設(株)、串木野建設工業(株)、高野組(株)、(株)馬込建設が担当した。